



トガリネズミラヴァー
六田晴洋の

私たちの ご近所さん



VOL. 16

「季節外れの 幼いフクロウ兄弟」

7月も終わろうかとい
うある日、森でエゾフク
ロウの幼い兄弟に出会
いました。
その姿は、枝に綿あめ
が引つかかっているよう
にも見えるモフモフさ。
「か、かわいい・・・」。
その2つの綿あめは、お
そらく初めて出会った人
間を見て「あれなんだろう
ね?」、「食べたらい
しいのかな?」とでも会
話しているようでした。
そして近くの木には大人
のエゾフクロウがいまし



興味深そうに私を見る兄弟



幼いヒナを見守る親鳥

PROFILE

六田晴洋

ろくたはるひろ

1986年生まれ。

2021年に白糠町へ移住。大学卒業後、フリーランスのカメラマンやディレクターとして野生動物や自然風景を撮影している。<https://rokutaharuhiro.com>



このヒナたちには、独り立ちしたあとにもその障害が立ちはだかるかもしれせん。どうか無事に生き抜いてほしい。とにかく子育てはあと少し、お母さん頑張れ!と願ってその場をあとにしました。

た。親鳥でしょうか。まだ警戒心を持ち合わせていないヒナたちをじつと見守っていました。
生きようとする力
ヒナたちを見ていて、あることに気がつきました。「あれ?こんな時期にこんな幼いヒナっているんだっけ?」と。
例年、これほど幼いヒナを見

るのはだいたい5月から6月。エゾフクロウは4月頃、樹洞の中で生まれ、親鳥に1カ月ほど育てられたあと巣立ちを迎えます。巣立ちと言ってもまだ上手には飛べないので、しばらくは親鳥からネズミやモモンガなどの食べ物をもらって育ちます。そうこうしていると、モフモフの毛から親鳥と同じような毛へと生え変わっていき、独り立ちでき

るようになるのです。でもこの2羽のモフモフ具合を見ると、巣立ってからまだそれほど時間は経っていないようです。ここまでに何かしらトラブルがあつて遅れてしまったのかもしれない。

らその時期に設定されているのであつて、それがズレるとデメリットが生じやすくなります。この2羽の親鳥はその障害を乗り越えて、ヒナたちをここまで育てたということ。野生生物の生きようとする力って本当にすごい。それをまざまざと感じました。